青和学園たより

Ｎｏ．７

◇青和学園は、義務教育学校・コミュニティ・スクールです。　令和８年３月１９日発行

《学園・地域の教育目標》

自他と地域を愛し、目的と希望を持ち、目標に向かってたくましく生きる、自立した学園生の育成

第6回 卒業証書授与式『ご卒業おめでとう!』

卒業生「答辞」より　（抜粋）

９年間の義務教育を、ここまで続けてくることができたのは、いつもそばで支えてくれた家族の存在があったからです。日々の生活の中で、どんなときも変わらず味方でいてくれたこと、そして「いってらっしゃい」や「おかえり」というさりげない言葉が、私たちにとってどれほど大きな支えだったのかを、卒業を迎えた今、改めて強く感じています。思うようにいかないときや悩みに立ち止まったときも、言葉にせず気持ちを受け止め、そっと見守り続けてくれました。その温かな存在があったからこそ、安心して前へ進むことができました。改めて、これまでのたくさんの支えに、心から感謝しています。私たちにとって、家族の存在は、いつでも帰ることのできる大切な場所でした。その安心があったからこそ、私たちはここまで歩んでくることができました。これからは、ここまで育て、支えてくれたことへの感謝を胸に、前を向いて進んでいきます。そして今私たちは、この青和学園という巣から、それぞれの新しい住処へと旅立っていきます。もちろん、友達ができるか、勉強についていけるか、など不安はあります。しかし同時に、新しい出会いや、新しい学校生活への楽しみもたくさんあります。

私たちはこの学校で、続ける力、集中する力、人をまとめる力、努力を重ねる力、そして人と関わる力を、身につけてきました。それらは決して一人で得たものではなく、仲間や先生、家族に支えられながら、失敗や悩みを乗り越える中で育まれてきた力です。この学校でついた力を大切にしていきたいと思います。

校長「式辞」より　（抜粋）

皆さんとの出会いは４年前の６年生のときでした。まだ私自身も学校のことや児童生徒の顔と名前が一致しない状況で、５月には日光への修学旅行を共にしました。ドライブインのカレーは絶品でみんなきれいにたいらげました。戦場ヶ原の散策や足湯･湯本の体験など楽しくまわることができましたね。まだ幼さの残っていたあなたたちがたくましく成長し、今日の卒業を迎えたことを本当にうれしく思っています。この学年は１３名という現在のこの学園では一番大人数の学年でした。集団の中では競争や切磋琢磨する中で成長する部分があると思いますが、みなさんは自分の思いや考えを前面に出し、ぶつけていくことが苦手なように感じました。これには３年生の終わりから４年･５年と続いたコロナ禍の影響があったように思われます。自我が芽生え他人と衝突したり、自他の違いを認め始め、協働する中で失敗や成功を繰り返す中で成長する時期に、コミュニケーションや協働に制限が課されてしまいました。周りは意識するものの、そこに自分を表現することに一歩引いてしまうようなところが見られました。しかし、後期課程になり大人や地域の方、周りと触れ合う機会も増え成長が促されました。９年生で行った京都･奈良への修学旅行では、班別行動での失敗もありましたが、自分たちの力で乗り越えることができました。青和祭では“やっぱり９年生”というリーダー性を発揮し頼りになる存在でした。そして、１２月には義務教育の最後として一人ひとりと面談をさせてもらいました。自分の進路や将来についてしっかりと口にし語ってくれました。自分の将来や生き方についてしっかりと考え、努力してきたのだなと驚かされ感激しました。今後もどのように成長し、夢や希望を叶えていくか楽しみです。

もう一つお話ししたいことがあります。皆さんは本当にたくましく成長してきました。その成長には、もちろん皆さん自身の頑張りもありましたが、皆さんの成長を支えてくださった家族の方々、先生方を始め学校で働く方々、クラスの友達や先輩・後輩、そして、登下校や様々な行事に際して地域の皆様方が、皆さんを見守り、励ましご指導くださったことも大きな働きになったと思います。「感謝の心」は、人として失ってはいけない心の一つです。人の思いを素直に受け入れ、恩を深く感じ、誠意を持って人と接し、心の底から感謝できる人。それは、他人に対しても温かい心を持てる人です。ぜひ「感謝の心」をもった素敵な大人に成長してください。卒業おめでとう。